

北九州市新門司マリーナにおける利用状況調査

九州共立大学 工学部 学生員 ○大城 明弘
九州共立大学 工学部 正 員 片山 正敏

1. はじめに

都市臨海部水辺空間の利用状況に関する調査の一環として、北九州市の新門司マリーナにおいて、平成5年7月～8月の間、①属性・居住地、②来訪目的・来訪頻度・交通手段、③施設の利用状況、④施設利用前の意識、⑤施設利用後の意識について「アンケート調査」を実施したので、その利用状況の概要について報告する。

2. 新門司マリーナの概要

新門司マリーナは、近年の海洋性レクリエーションの要請に対応するため、北九州市で初めての公共マリーナとして平成3年11月に完成した。当マリーナの管理運営は、北九州市および民間企業が出資した第3セクターである新門司マリーナ㈱があたっている。

事業目的は、①舟艇の保管、②クラブハウスの運営管理、③海洋性レクリエーション活動の普及である。

舟艇の保管能力は、500隻(海上保管 150隻、陸上保管350隻)で、使用面積は、7.9 ha (水域 5.2ha、陸域 2.7ha)である。保管隻数を表-1 に示す。

表-1 新門司マリーナでの舟艇保管隻数

艇 種	陸上保管	海上保管	合 計
モーターボート	46	5	51
クルーザーヨット	3	7	10
ディンギーヨット	20	0	20
合 計	69	12	81

平成5年5月31日時点

3. アンケート調査の概要

表-2 アンケート調査の概要

調査対象	新門司マリーナへの来訪者全員
調査期間	平成5年7月～8月の10日間
調査方法	来訪者に調査票を配布・回収
調査項目	大項目28、合計38項目
回収数	853
有効回収率	807 (94.6%)

なお、有効回収率としては、ほぼ全項目にわたって回答しているものを有効回答とした。

4. 来訪者の属性

(1) 来訪者の年齢、性別

来訪者の約42%が20歳代で、続いて、30歳代と40歳代がそれぞれ約20%を占めており、夏場のマリニレジャー施設の特徴が現れている。(図-1 参照)

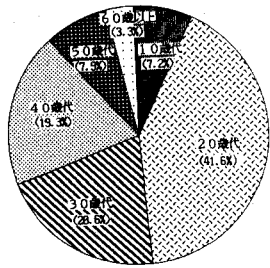


図-1 来訪者の年齢

また、来訪者の性別では、女性が約57%と男性を上回っている。

(2) 来訪者の職業

来訪者の職業は、約44%が会社員と回答しており、第2位は約18%で主婦となっている。(図-2 参照) これは、来訪の主たる目的がクルージング以外であることによると思われる。

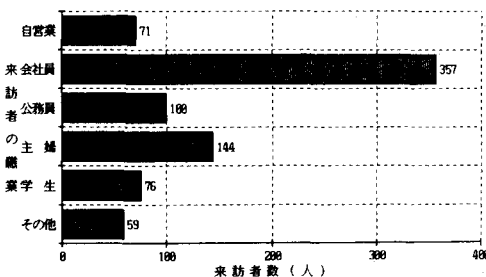


図-2 来訪者の職業

5. 来訪者の来訪目的、来訪回数、来訪頻度

(1) 来訪の目的

平成5年が冷夏ともいわれる異常気象であったことの影響もあり、主たる来訪目的はレストラン利用が回答者の約47%と多く、クルージング目的は約5%と非常に少ない。(図-3 参照)

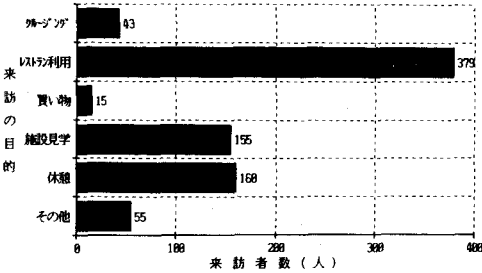


図-3 来訪者の来訪目的

(2) これまでの来訪回数

新門司マリーナが平成3年11月に完成して以来、約1年8ヶ月しか経過していなかったこともあり、初めて、あるいは、9回以下の人がそれぞれ約43%、約44%と多い。(図-4 参照)

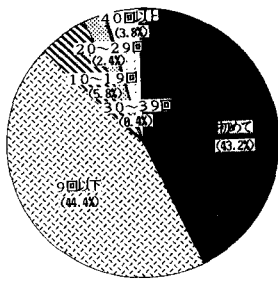


図-4 これまでの来訪回数

(3) 来訪の頻度

新門司マリーナへの来訪頻度を図-5に示す。初めての人約43%に続いて、1~2回/年の人が約23%と多く、新門司マリーナまでの交通手段は、公共交通機関の利用が不便なため、約98%が自家用車によっている。また、新門司マリーナまでの所要時間は、30分~1時

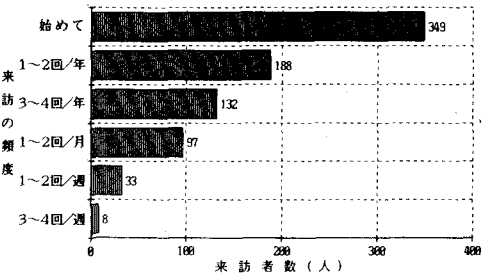


図-5 来訪者の来訪頻度

間が約47%、30分以内が約37%と圧倒的に多く、2.5時間以上の遠距離からの来訪者は約2.7%と非常に少ない。

6. 施設の利用状況

(1) 利用時の同行者

マリーナ利用時の同行者は、親しい友人・知人が約41%、続いて家族が約31%と多く、親しい異性が約16%となっている。(図-6 参照)

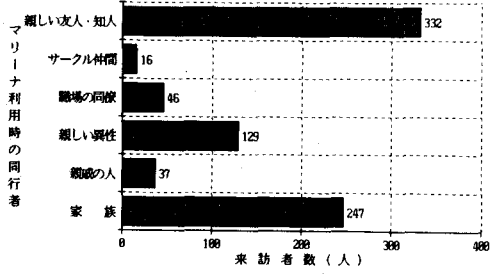


図-6 マリーナ利用時の同行者

(2) 利用時の人数、利用(滞在)時間

マリーナ利用時の人数は、1~2人が約51%、3~4人が約37%と少人数での利用が多い。(図-7 参照)

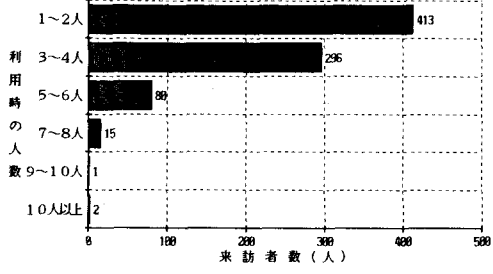


図-7 マリーナ利用時の人数

また、マリーナの利用(滞在)時間は、1時間以内が約55%、続いて1~3時間が約38%と比較的短時間の利用者が大多数を占める傾向にある。

7. おわりに

北九州市の新門司マリーナにおける利用状況についての「アンケート調査結果」より、この種施設の基本計画データが得られた。今後、多変量解析による分析などを進めて行きたい。

最後に、今回の調査に御協力・御助言をいただいた北九州市港湾局、新門司マリーナ(株)、(株)アクアランディア、九州共立大学の関係者に感謝いたします。